

麻 酔 科

1. 目的と特徴

臨床医として必要な知識・技術・態度を身につける。手術患者の麻酔管理を通じて、呼吸循環管理や体液代謝管理の技能、知識を習得する。チーム医療の重要性を認識し、指導医・他科の医師・看護師・その他の医療従事者と協調して医療を進める。当科の研修によって、麻酔科専門医、ペインクリニック専門医、集中治療専門医、心臓麻酔専門医、緩和ケア認定医の取得が可能となる。

2. 指導スタッフ

| | |
|------|----------------------|
| 教授 | 市川順子（麻酔全般、心臓血管麻酔） |
| 特任教授 | 小森万希子（麻酔全般、ペインクリニック） |
| 臨床教授 | 小高光晴（集中治療、心臓血管麻酔） |
| 講師 | 小高桂子（緩和ケア、ペインクリニック） |

3. 研修施設

基幹施設：東京女子医科大学附属足立医療センター麻酔科

研修協力施設：東京女子医科大学本院麻酔科、都立小児総合医療センターなど8施設

4. 研修カリキュラム

A：行動目標：医療人として必要な基本姿勢・態度

- (1) 患者、家族がともに納得できる医療を行うためのインフォームドコンセントが実施できる。
- (2) 上級医および同僚医師、他の医療従事者と適切なコミュニケーションがとれる。
- (3) 医療を行う際の安全確認の考え方を理解し、実施できる。

B：経験目標

- 1) 既往歴・現病歴など麻酔問診表に基づき、麻酔・全身管理に必要な情報を問診できる。
- 2) 麻酔に関するインフォームドコンセントを実施できる。
- 3) 全身の身体診察を系統的に実施できる。
- 4) 医療面接と身体診察から得られた情報や手術対象疾患の病態を理解し、術前検査結果の解釈によって麻酔管理上の患者の問題点を把握できる。
- 5) 様々なモニターの使用法に習熟する。
- 6) 人工呼吸器による呼吸管理ができる。
- 7) 全身麻酔の手技を理解し、習熟する。
- 8) 脊髄くも膜下穿刺、硬膜外麻酔の手技と管理を習熟する。
- 9) 手術侵襲や患者の全身状態を考慮した管理ができる。
- 10) 術後訪問、術後疼痛管理の重要性を認識し、実践できる。
- 11) 通常の成人予定手術患者の全身麻酔に加えて、以下の麻酔を習熟する。
高齢者、小児、重症合併症、ショック患者の麻酔、産科麻酔、心臓麻酔、臓器移植麻酔、緊急手術の麻酔を習熟する。
- 12) 集中治療室で重症患者の管理を行う。
- 13) ペインクリニックの診断と治療を学び、実践する。
- 14) 超音波ガイド下神経ブロックの手技を学ぶ。
- 15) 抄読会、症例検討会、勉強会に参加して、討論する。
- 16) 学会に参加し、発表する。発表内容を論文として投稿する（国内外の学会、英文論文）。
- 17) 麻酔科標榜医及び認定医を取得し、麻酔科専門医の申請資格を得る。

C：年次別スケジュールと研修内容概略

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

- 1年：基本的麻酔手技、ペインクリニック
- 2年：重症合併症を有する患者の麻酔、心臓麻酔研修、集中治療、小児麻酔研修
- 3年：関連病院への出張、標榜医及び認定医取得
- 4年：研究会、学会発表、論文作成
- 5年：専門医試験、チーフレジデント

D：週間予定

以下は基本的なスケジュールであり、変更となることがある。

- 月曜 勉強会、麻酔、ペインクリニック、周術期外来、集中治療
- 火曜 麻酔、周術期外来、緩和ケア医療、ペインクリニック
- 水曜 抄読会、麻酔、ペインクリニック、周術期外来、集中治療
- 木曜 麻酔、周術期外来、集中治療
- 金曜 症例検討会、麻酔、周術期外来、集中治療

E：評価

各分野（麻酔、ペインクリニック、集中治療）の指導医から評価を受ける。

5. 後期臨床研修修了後の進路

後期臨床研修修了後、東京女子医科大学附属足立医療センターに就職を希望するものは、麻酔科教授と相談する。助教として採用も可能。

6. 学位

研究論文が掲載された後、教授との協議のもと、医学博士の学位申請が可能である。

7. 専門医

麻酔専門医を期間中に取得する。その後に集中治療専門医、ペインクリニック専門医、心臓血管麻酔専門医を取得することができる。

8. 問い合わせ先

〒123 - 8558 東京都足立区江北 4-33-1
東京女子医科大学附属足立医療センター
麻酔科 教授 市川順子 医局長 向山瑤子、
TEL：03 - 3857-0111 (内線 31391)
FAX：03 - 6807-1972